

Title	UDP/P2Y6 receptor signaling regulates IgE-dependent degranulation in human basophils
Author(s)	中野, 学
Citation	
Issue Date	2017-03-23
URL	http://hdl.handle.net/10129/6123
Rights	
Text version	author



<http://repository.ul.hirosaki-u.ac.jp/dspace/>

細則様式第 4 号

論文審査及び最終試験結果報告書			
氏名	中野 学		
入学年度	平成 25 年度	学籍番号	13GG708
領域	医療生命科学	分野	病態解析科学
審査委員	主査	伊藤 巧一	
	副査	丹藤 雄介	
	副査	高橋 徹	
	副査	高見 秀樹	

論文題目：

「UDP/P2Y6 receptor signaling regulates IgE-dependent degranulation in human basophils」

審査結果要旨：

学位審査会において学位審査論文に関し、上記研究テーマについて系統的、かつ過不足なく記述できているか、新たな知見が含まれているか審査した結果、適切と認められた。また、研究内容の意義、結果について質疑応答したが、答えは的確であった。細胞外ヌクレオチド受容体である P2Y 受容体は、G タンパク共役型受容体である。細胞外ヌクレオチドの刺激は、P2Y 受容体を介し cAMP 産生、PKC 活性化や細胞内 Ca²⁺ 上昇を誘導することで、細胞機能を調節している。本研究では、好塩基球の培養上清中から P2Y6 受容体の特異的アゴニストである UTP を検出し、好塩基球の P2Y 受容体及び細胞外ヌクレオチダーゼ (ENTPDase) 発現を RT-PCR 法で確認した。これらの結果、好塩基球はオートクラインにより P2Y6 受容体を刺激し、IgE 依存性脱顆粒を促進する新たな好塩基球脱顆粒に関する機序を明らかにした。本研究はアレルギー症状の緩和治療のターゲットとして P2Y6 受容体が有用であることを示唆する新知見を含む学位(博士)に値する研究論文と認められた。

最終試験 平成 29 年 2 月 1 日

試験の結果は 合格 ・ 不合格 と判定する。